

しりべし経済レポート

Vol.119

(令和8年6月発行)



財務省 北海道財務局 小樽出張所



<https://lfb.mof.go.jp/hokkaido/otaru/index.html>

希望ある未来へ 地域と歩む 北海道財務局



目次

総括判断	1
個人消費	2
観光	4
住宅建設	5
公共工事	6
生産	6
雇用	7

【参考】

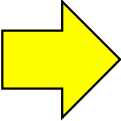
金融	8
企業倒産	9

=利用に当たっての注意=







- ・数字の単位未満は原則として四捨五入としているため、合計と内訳の計、表中記載の前年比と表上での算出前年比が一致しない場合がある。
- ・本指標は本レポート発行時に公表されているデータを基に作成しており、原則としてその後のデータ提供先による修正を反映していない。

1. 【令和8年1月～3月期 総括判断】

管内経済は、持ち直している

	前回 (R7.10～12月期)	今回 (R8.1～3月期)	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	

2. 【各項目の判断】

	前回 (R7.10～12月期)	今回 (R8.1～3月期)	前回比較
個人消費	持ち直しつつある	持ち直しつつある	
観光	回復しつつある	回復しつつある	
住宅建設	持ち直しの動きに一服感がみられる	一進一退の状況にある	
公共工事	年度累計で前年を上回る	前年を上回る	
生産	持ち直しつつある	一進一退の状況にある	
雇用	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	

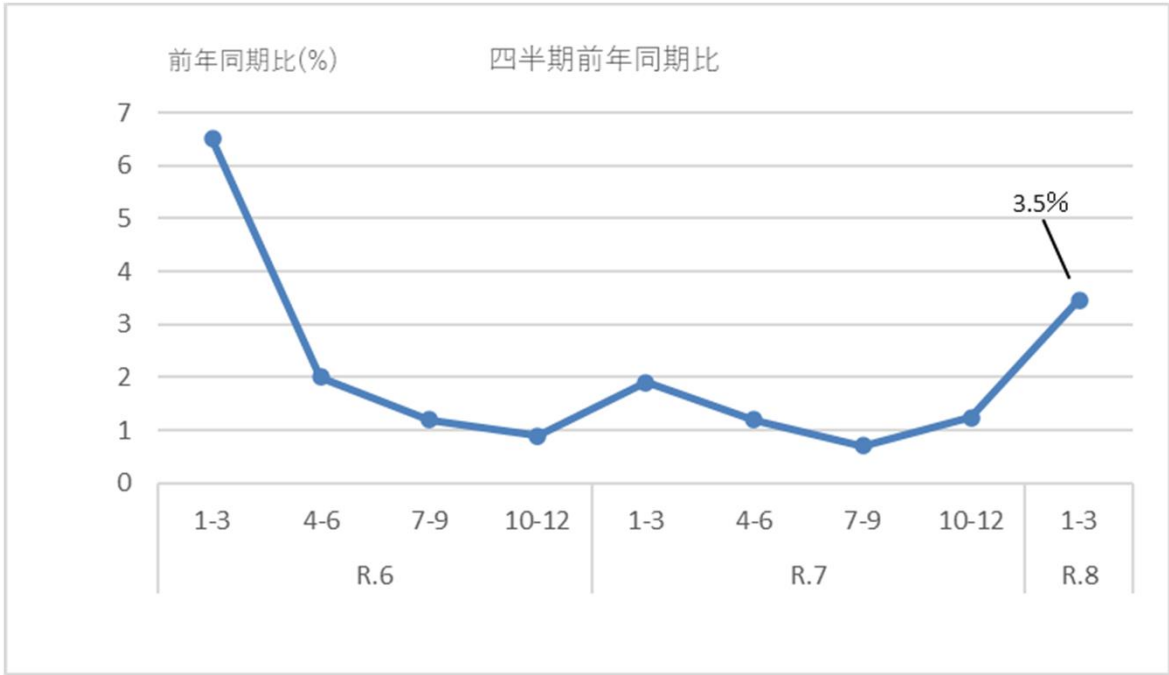
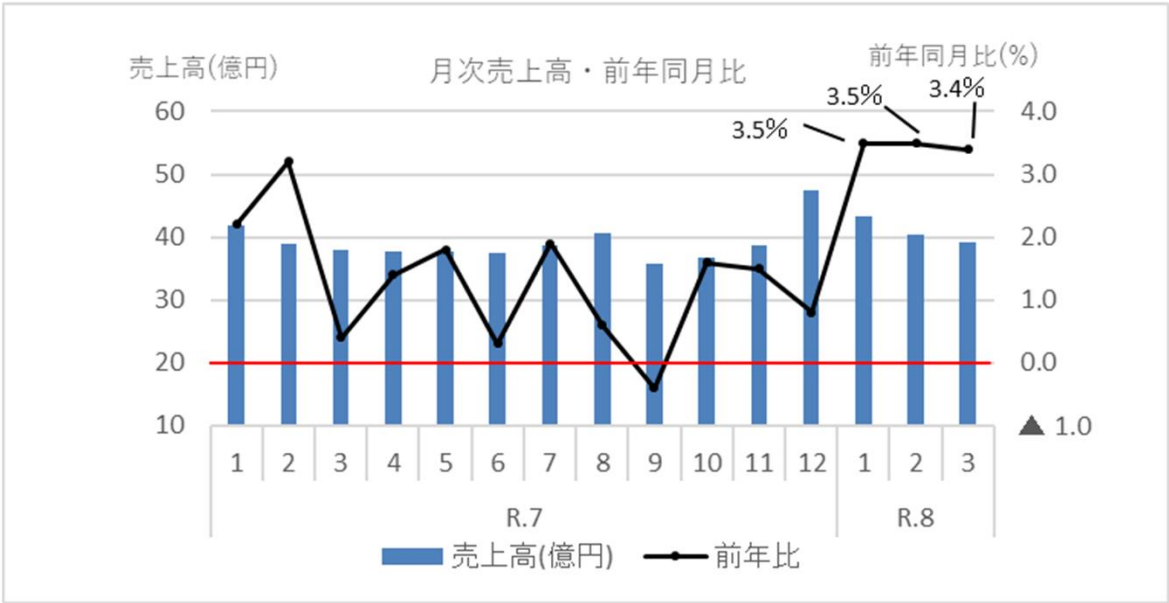
【個人消費】

持ち直しつつある

主要小売店売上高は、物価高の影響により節約志向が続く中、冬の観光需要によるインバウンド消費が好調であり、前年を上回っている。

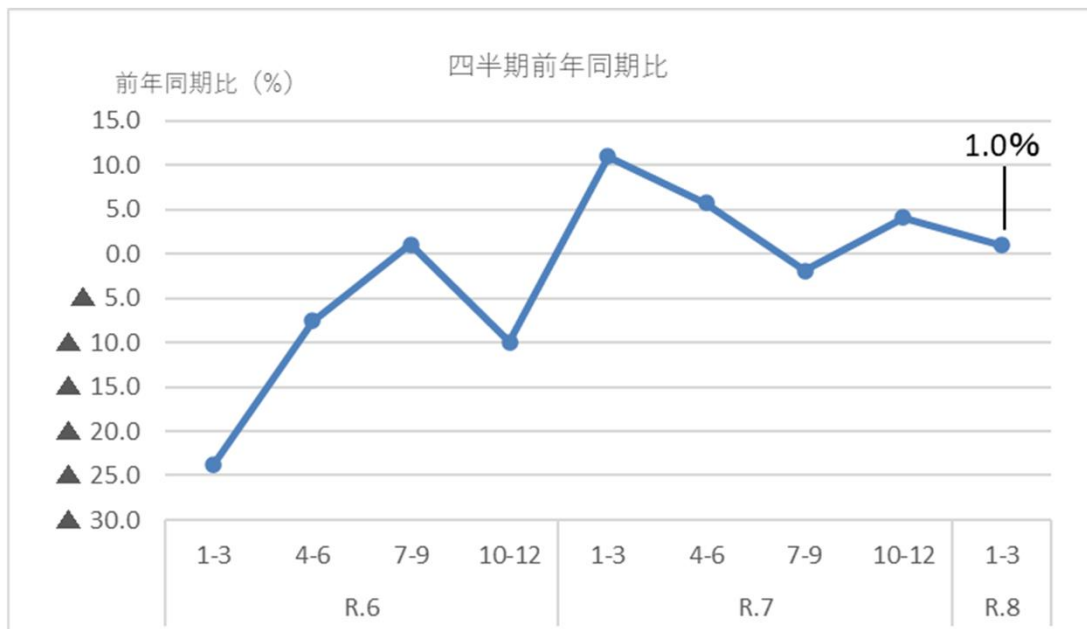
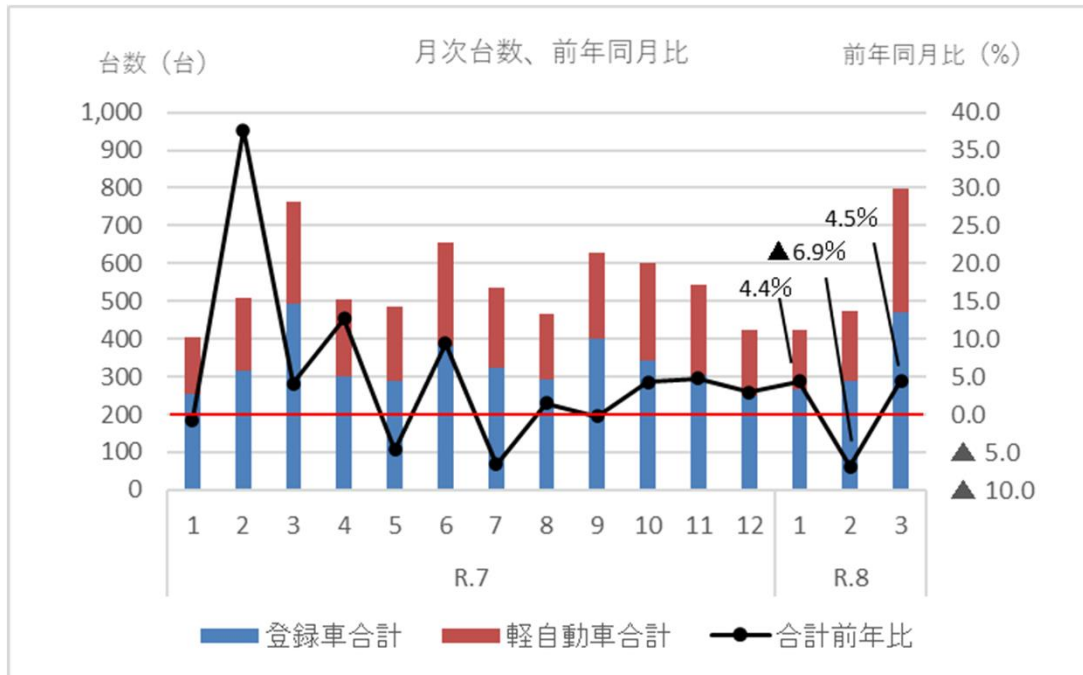
新車登録・届出台数は、引き続き軽自動車や小型乗用車に人気があることから、前年を上回っている。

主要小売店売上高の推移



(資料) 北海道財務局小樽出張所

新車登録・届出台数の推移



（資料）北海道財務局小樽出張所

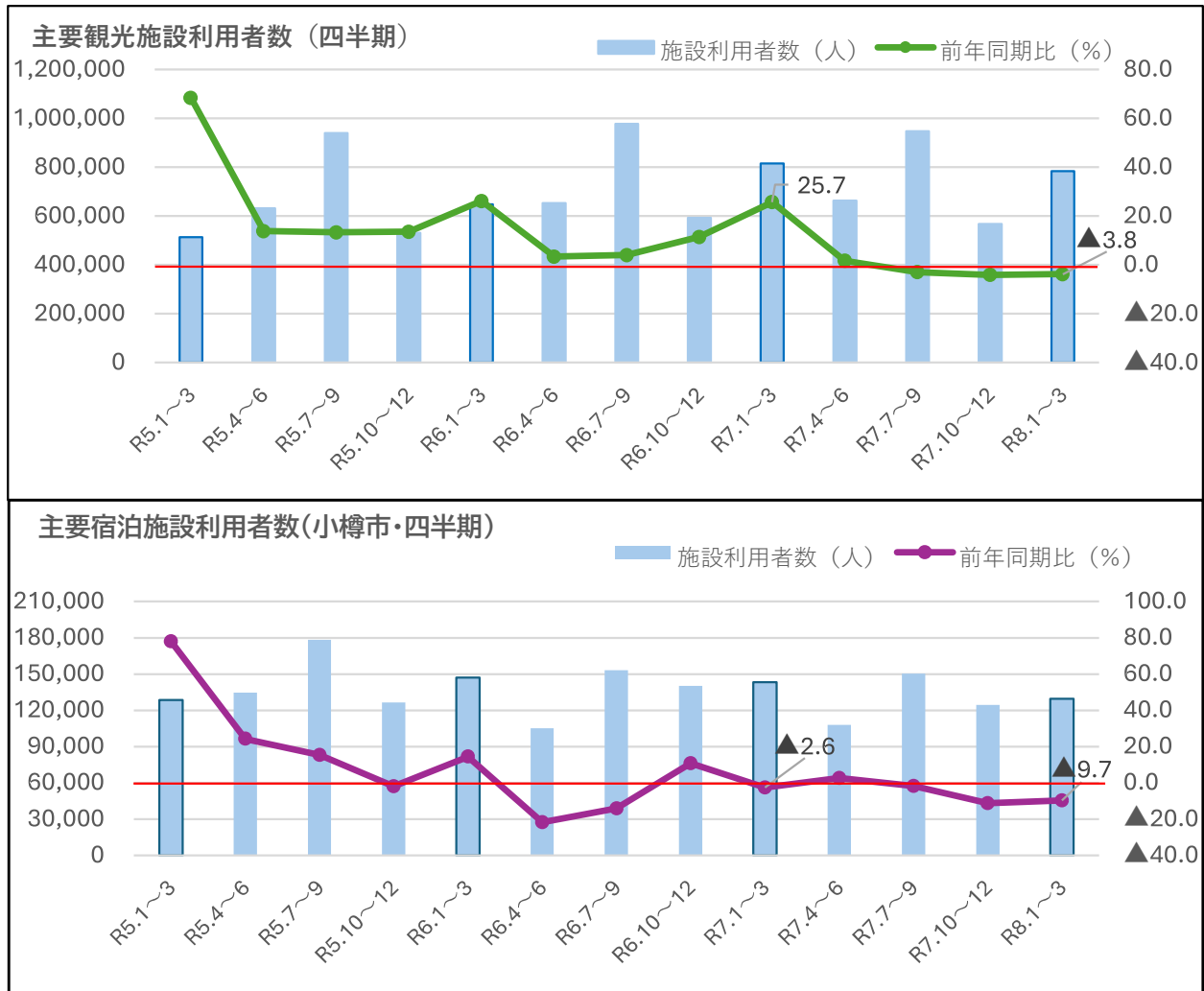
個人消費に関する生の声

- ・物価高・光熱費上昇により節約志向が顕著に表れている印象。必要最低限の購入が多くみられた。（小売店）
- ・中国からの団体観光客が少ないエリアとなり、その分中国からの個人観光客や他国（韓国・台湾・フィリピン）からの観光客が増加しているため影響は少ない。（小売店）
- ・冬靴やマフラー、手袋の売行きが良く、観光客が寒さに耐えられず急ぎょ購入していったと思われる。（小売店）
- ・低単価のおかずは売行きが好調である一方、コメの値上げが影響したためか弁当の売行きは不調であった。（小売店）
- ・引き続き、軽自動車やコンパクトカーの需要が根強い。（乗用車販売店）
- ・車体価格への意識については、価格が高くても購入する派ととにかく安く購入したい派の二極化になっている印象である。（乗用車販売店）
- ・メーカーも後押ししたキャンペーンの効果もあり、受注台数が前年同期よりも増加した。（乗用車販売店）
- ・毎年春において、就職での新車購入や、車検、車体劣化による乗り換えといった理由から、顧客が新車に乗りたいと希望する傾向にある。（乗用車販売店）
- ・引き続き安心・安全面を重視している顧客が多い一方、顧客が好きな車を選んでおり、消費マインドの冷え込みは見られない。（乗用車販売店）

【観光】

回復しつつある

主要観光施設利用者数及び主要宿泊施設宿泊者数は、物価高の影響や一部海外団体客の減少の影響があったことから、前年を下回っている。



（資料）北海道財務局小樽出張所

観光に関する生の声

- ・韓国や東南アジアからの団体ツアー客や、大学生等の卒業旅行が増えている。（観光施設）
- ・中国人客は減少傾向ではあるが割合は最多。台湾、韓国、香港、シンガポール、マレーシア、タイなど様々な国から旅行客が来ており、中国からの旅行客減少の利用者数への深刻な影響はない。（観光施設）
- ・降雪による交通障害の影響で、キャンセルや宿泊日数を減らす動きが見られた。（宿泊施設）
- ・宿泊料を値上げしたが、物価高による国内客の旅行控えに加え、中国人客の減少に伴い余剰となったホテルや民泊が安価な競合先となった影響により客数が減少した。（宿泊施設）
- ・北米の雪不足により欧米からのスキー客が増加した。アジア圏の富裕層も多かった。（公共団体）

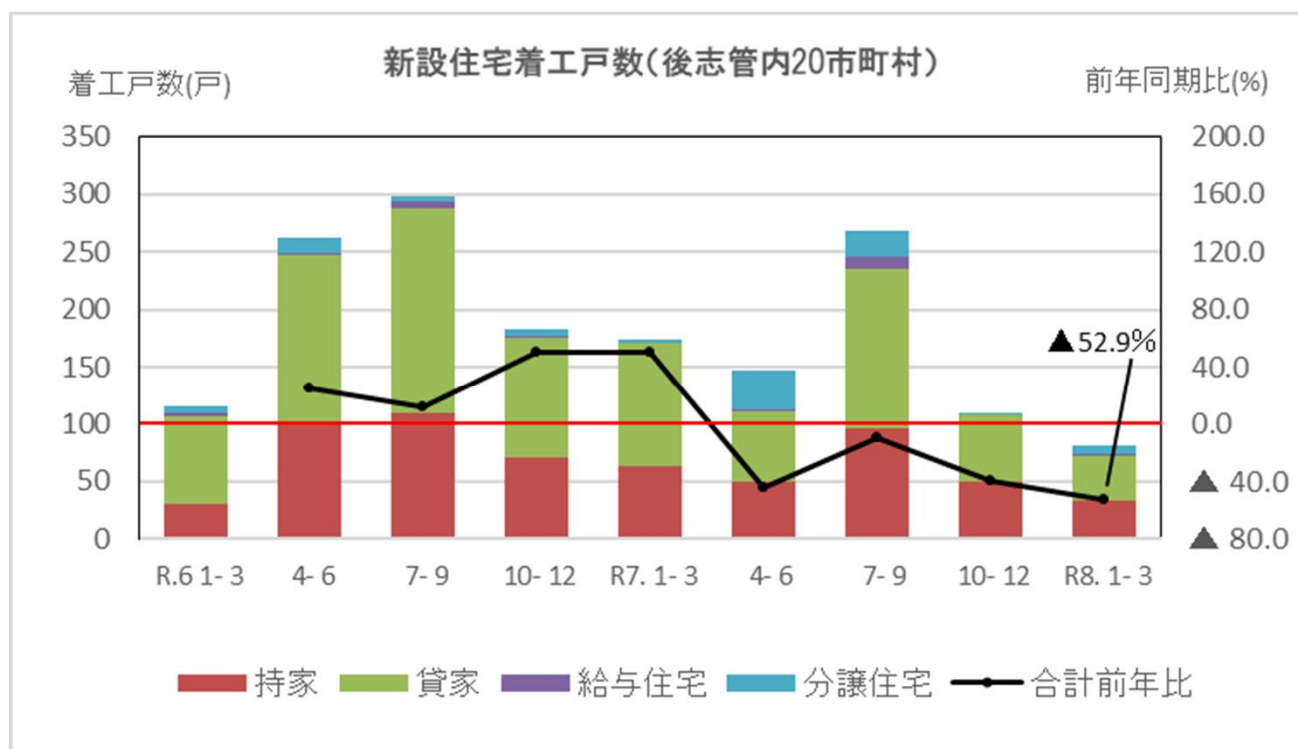
【今後の見通し】

- ・5月はGWの旅行客が海外より国内に流れる見込みなので増加見込み。（観光施設）
- ・中国人客の減少は団体客に限られ、個人客への影響は軽微であるため個人客の多い当施設への影響は少ないと見込む。（観光施設）
- ・4月から宿泊料を値上げしており、見通しは厳しい。（宿泊施設）
- ・中東情勢、原油高の影響を懸念する声が聞かれた。（観光施設、宿泊施設、公共団体）

【住宅建設】

一進一退の状況にある

新設住宅着工戸数は、給与住宅と分譲住宅では前年を上回っているものの、持家と貸家では前年を下回っており、全体でも前年を下回っている。



(資料) 国土交通省

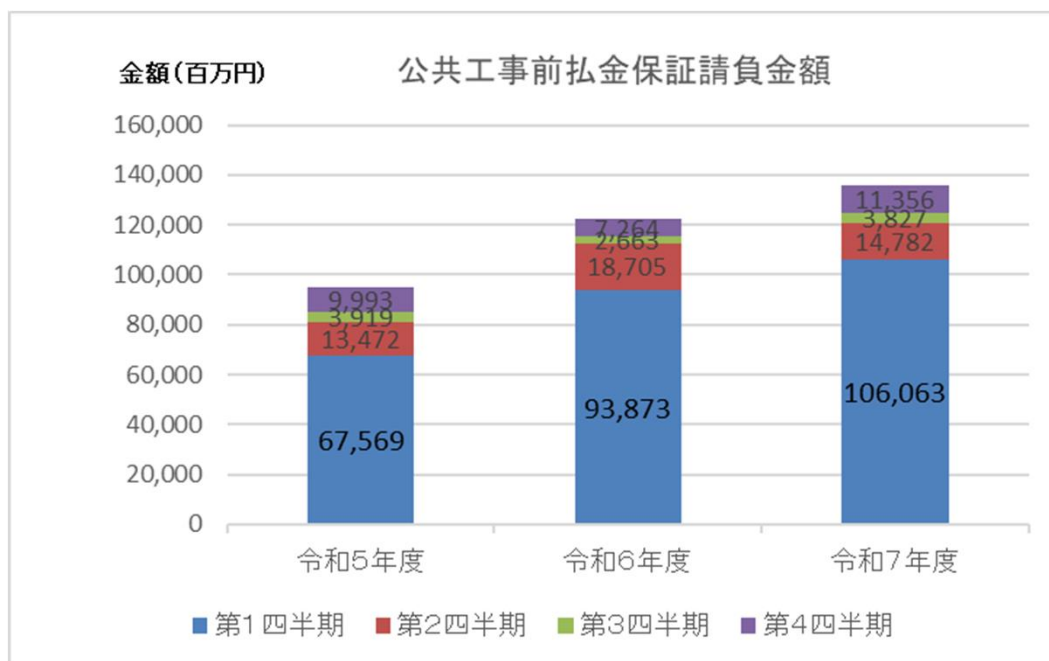
住宅建設に関する生の声

- ・戸建住宅については、物価の高騰が進んだことで家を建てる際の工事費が増加し、件数が微減している。(公的機関)
- ・引き続き、地価上昇の影響がある。(建設会社)
- ・中東問題に端を発した石油製品の急激な値上がりに加え、ホルムズ海峡の封鎖によってメーカーによる製造中止や受注停止などが起こり、お客様に正確な工期をお伝え出来なくなっている。押し出し発砲ポリスチレンを皮切りに住設機器など建築資材の高騰、品不足により工期未定、着工延期など今後の見通しが立たない。(建設会社)

【公共工事】

前年を上回る

公共工事前払金保証請負金額でみると、四半期合計(令和8年1月から3月)及び年度累計ともに前年を上回っている。



(資料) 北海道建設業信用保証協

※四半期の数字は、端数の関係で単月3ヶ月の累計と一致しない。

【生産】

一進一退の状況にある

生コン出荷状況は、官需は前年を大きく上回っているが、民需は前年を下回った。全体では前年を大きく上回っている。

水産加工稼働状況は、円安等による仕入れ価格上昇分の販売価格への転嫁が進んでおらず、低調となっている。

金属加工は、住宅着工数の減少による稼働率の低下が見られる一方、農業部門や軌道整備関連では受注増加も見られることから、順調となっている。

機械生産は、自動車関連の受注減により、低調となっている。

プラスチック製品は、製紙工場の閉鎖や漁業製品の需要低下による包装製品の受注減から、低調となっている。

ゴム製品は、建築需要による受注があることから、安定した操業になっている。

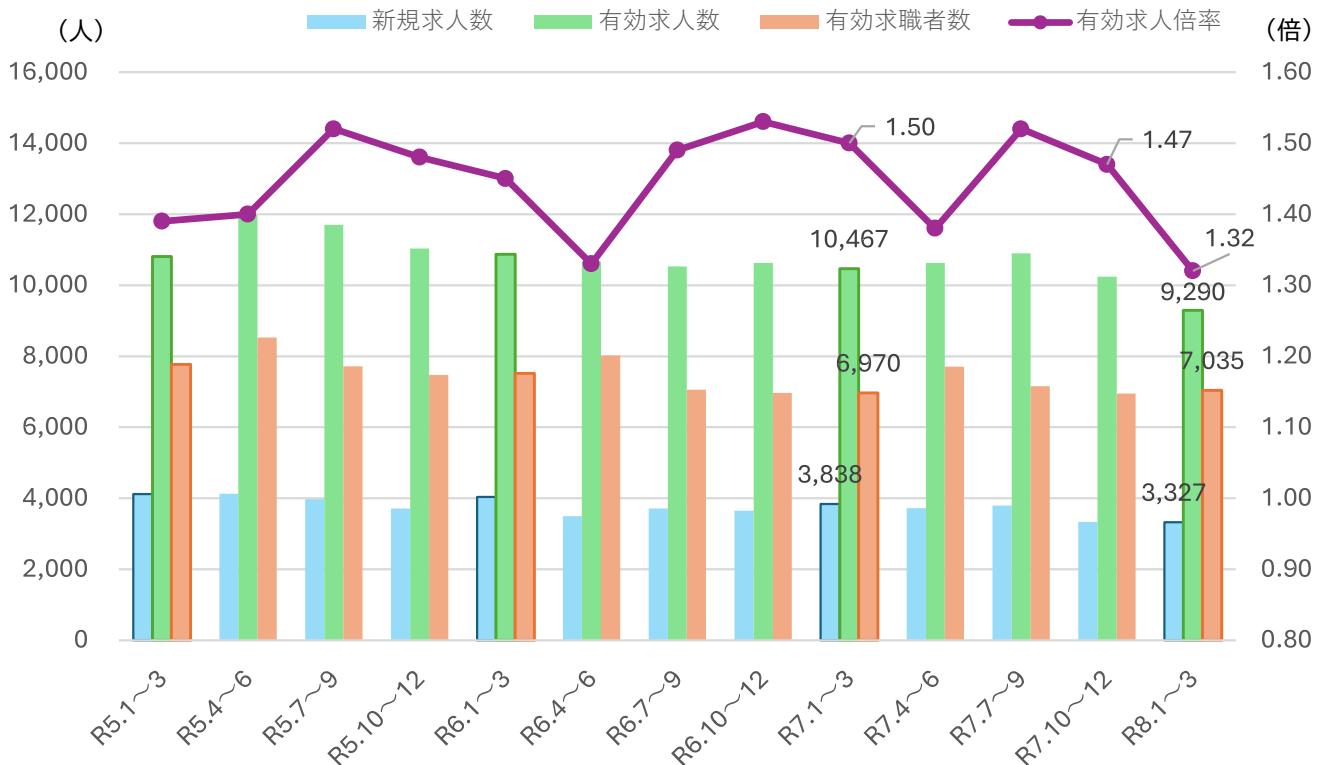
【雇用】

緩やかに持ち直している

有効求人倍率及び有効求人数の両方が前年を下回っている。なお、有効求人数の減少幅が前年に比べて拡大している一方、有効求職者数は増加に転じている。

ヒアリング先からは、人手不足の状況が続いており、採用活動に積極的に取り組んでいる等の声が聞こえており、企業の求人意欲が高い状況が続いている。

有効求人倍率（常用・原数値）、新規求人数、有効求人数



(資料) 小樽・岩内公共職業安定所

※本指標は常用と常用パートの合計である。

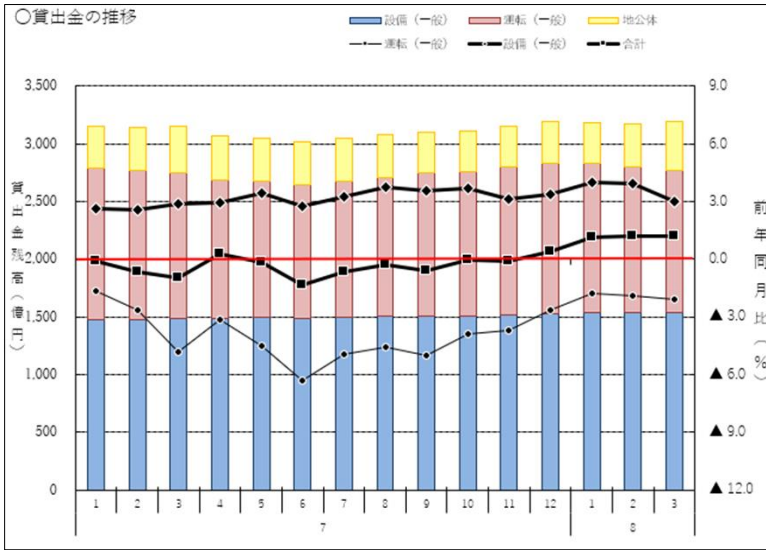
雇用に関する生の声

- ・ 有効求人倍率は前年を下回っているが、依然として1.0倍を超えている状況のため、求人の総量をまかなえている状況とは言えず人手不足は続いていると言える。(公的機関)
- ・ 人手不足により、失業を経ない就職・転職の増加や、民間人材サービスの利用拡大によりハローワークに登録しない求職者が増加している可能性が考えられる。(公的機関)
- ・ 最低賃金の上昇により求人を保留した企業がそのまま求人を保留している。(公的機関)
- ・ 箱の組立やシール貼り付け等の作業でスポットワークを活用しているが、応募者は本業を持っているために採用活動へつなげることは難しい。(製造業)
- ・ 学校訪問、説明会開催・参加、インターンシップの実施などの取組を行っている。(観光施設、宿泊施設、製造業)

参考

【金融】

金融（貸出金）



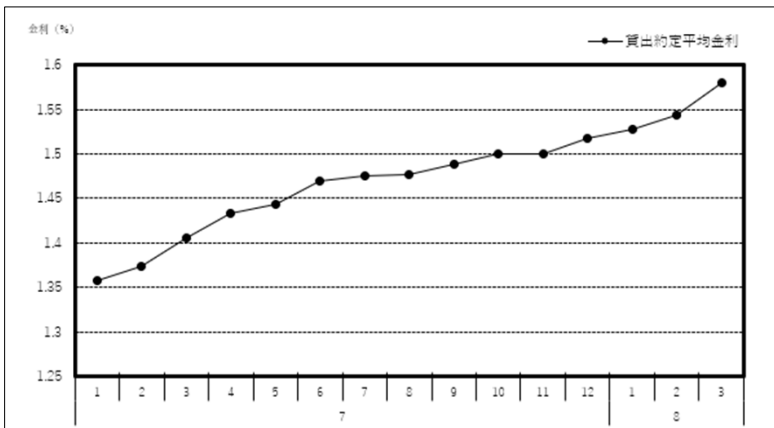
(資料) 北海道財務局小樽出張所

	金額(百万円)				前年比
	設備(一般)	運転(一般)	地公体	合計	
6年3月	144,881	132,088	41,192	318,161	▲1.6
7年3月	149,090	125,726	40,266	315,082	▲1.0

7年10月	151,041	124,801	35,495	311,337	▲0.0
11月	152,089	127,551	35,489	315,129	▲0.1
12月	153,024	130,484	35,489	318,997	0.4
8年1月	153,546	129,280	35,839	318,665	1.1
2月	153,722	126,475	37,410	317,606	1.2
3月	153,550	123,089	42,315	318,954	1.2

- ※1. (一般) は法人及び個人向けの貸出である。
- ※2. 統計対象業態は、ゆうちょ銀行を除く銀行、信用金庫である。

金融（貸出約定平均金利）



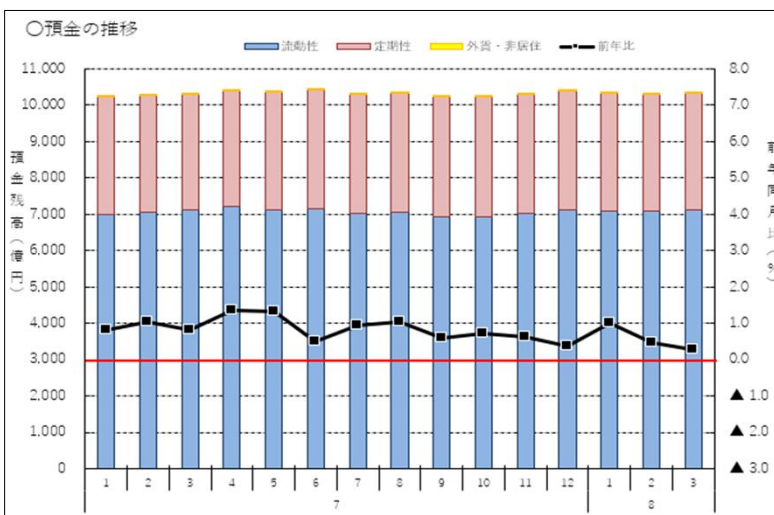
(資料) 北海道財務局小樽出張所

	金利(%)	前年差(Pt)
6年3月	1.257	0.016
7年3月	1.406	0.149

	金利(%)	前月差(Pt)
7年10月	1.500	0.012
11月	1.500	0.000
12月	1.517	0.017
8年1月	1.527	0.010
2月	1.543	0.016
3月	1.580	0.037

※統計対象業態は、ゆうちょ銀行を除く銀行、信用金庫、労働金庫である。

金融（預金）



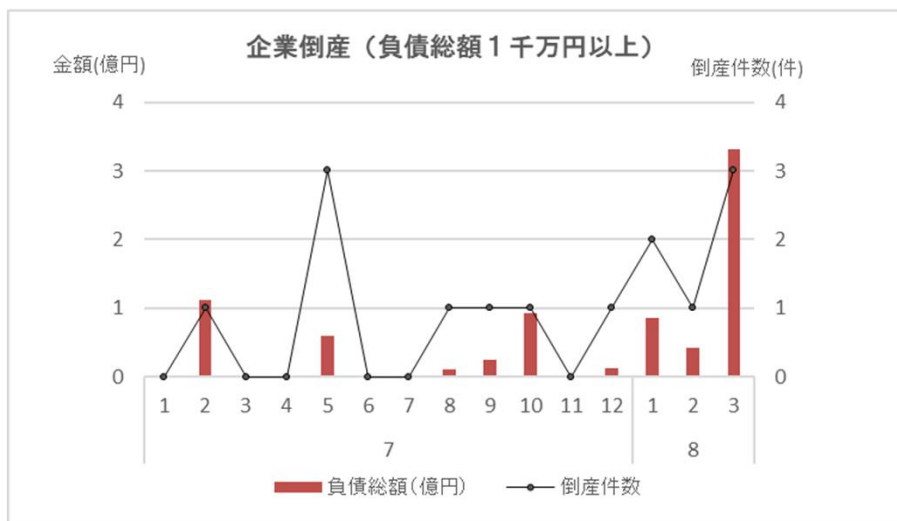
(資料) 北海道財務局小樽出張所

	金額(百万円)				前年比
	流動性	定期性	外貨・非居住	合計	
6年3月	693,703	328,964	492	1,023,159	2.8
7年3月	711,771	318,813	956	1,031,540	0.8

7年10月	694,103	327,633	767	1,022,503	0.7
11月	703,277	327,741	661	1,031,679	0.6
12月	711,479	327,834	605	1,039,918	0.4
8年1月	708,260	325,009	580	1,033,849	1.0
2月	708,537	322,146	599	1,031,282	0.5
3月	712,657	321,081	663	1,034,401	0.3

※統計対象業態は、ゆうちょ銀行を除く銀行、信用金庫、労働金庫である。

【企業倒産】



(資料) 株式会社東京商工リサーチ

	倒産件数(件)	前年比	負債総額(百万円)	前年比
6年	6	▲53.8	426	▲78.1
7年	8	33.3	312	▲26.8

7年1-3月	1	▲50	112	▲64.7
7年4-6月	3	50	60	3.0倍
7年7-9月	2	0	34	▲61.8
7年10-12月	2	皆増	106	皆増
8年1-3月	6	6.0倍	461	4.1倍

7年10月	1	皆増	93	皆増
7年11月	0	0	0	0
7年12月	1	皆増	13	皆増
8年1月	2	皆増	86	皆増
8年2月	1	0	43	▲61.6
8年3月	3	皆増	332	皆増

財務省 北海道財務局

小樽出張所 財務課

〒047-0007

小樽市港町5番2号 小樽地方合同庁舎

TEL 0134-23-4103

E-mail HKZJOTARUZAIMU@hk.lfb-mof.go.jp